

## 25年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 10月20日～ 11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は17社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 35.7	△ 17.9	△ 21.4
	マツ	△ 18.2	△ 9.1	△ 22.7
	広葉樹	△ 8.8	△ 5.9	△ 11.8
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 10.7	3.6	0.0
	マツ	△ 4.5	△ 4.5	△ 13.6
	広葉樹	8.8	14.7	5.9
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 28.6	△ 32.1	△ 32.1
	マツ	△ 13.6	△ 9.1	△ 18.2
	広葉樹	△ 17.6	△ 11.8	△ 14.7

入荷はスギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹共に減少基調で推移。

消費はスギ・ヒノキは11月の減少が12月のやや増加を経て1月にはやや減少、マツは減少基調で推移、広葉樹は増加基調で推移。

在庫はいずれの品目も減少基調で推移。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
スギ・ヒノキ	7.1	3.6	7.1
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

原木購入価格は、スギ・ヒノキは小さなプラスがで推移、マツ類及び広葉樹は共に横ばいで推移。

## モニターからのコメント

(原木荷動き) ・スギ・ヒノキの仕入は時期が良くなり出材増えてくるが当月は準備段階にて出材減少、マツ類、広葉樹は全体量少なく変動なし。スギ・ヒノキの消費は当月は出材減にて減、以降出材増にて横ばい、マツ類、広葉樹は全体量少なく変動なし。仕入、消費は秋になり天候も順調で今後入荷量、出荷量に期待出来そう。在庫は天候不順で近年にない在庫の落込み、スギ4ヶ月→3ヶ月分、マツ4ヶ月→3ヶ月分、広葉樹3ヶ月→1ヶ月分。

・台風災害復旧遅れ、材の入荷少ない。国有林生産請負も11月で終わる様子。広葉樹入荷量も少なく減少気味。在庫減少も12月中旬までか。

・針葉樹は間伐補助金の条件変更で出材大幅減。広葉樹山の伐出に伴い出材増、工事等の支障木の出材増。消費は針葉樹は製紙会社の在庫調整のため一時的に針葉樹チップ増産で使用量増、広葉樹は入荷多く在庫持てるようになった。在庫は、針葉樹は入荷より使用量多く在庫減、広葉樹は入荷多く在庫増。

・在庫はH26. 1は正月休みのため広葉樹チップは横ばいもしくはやや減少。

・仕入は12月より降雪期に入るので遠方の搬出が減少する。消費は1月は正月休みで出荷が減少。消費は入荷少ないため減。

・スギ、ヒノキの原木少ない。バイオマスの影響出ているのか原木市場にも出材少ない。

## (原木価格)

・変動なし。売値変わらず、仕入値変わらず。

・広葉樹素材単価が安く立木の手当が大変。

・針葉樹、広葉樹とも横ばい。

・前月と同様。

・先月と変わらず。

## 25年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 11.5	7.7	0.0
	マツ類	5.0	10.0	0.0
	広葉樹	10.0	13.3	3.3
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 15.4	0.0	△ 3.8
	マツ類	0.0	△ 10.0	△ 15.0
	広葉樹	6.3	6.3	6.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 29.2	△ 22.7
	マツ類	△ 16.7	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 28.6	△ 10.7	△ 15.4

チップの生産はスギ・ヒノキは11月のやや減少が12月のやや増加を経て1月にはやや減少に、マツ類は11,12月のやや増加が1月にはやや減少に、広葉樹は増加傾向で推移。

出荷はスギ・ヒノキは11月の減少が12月の横ばいを経て1月にはやや減少に、マツ類は11月の横ばいが12,1月には減少に、広葉樹はやや増加傾向で推移。

在庫はいずれの品目も減少傾向で推移。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W.

品目	25/11月	12月	26/1月
スギ・ヒノキ類	△ 3.6	0.0	0.0
マツ類	△ 8.3	△ 4.2	△ 4.2
広葉樹	0.0	0.0	0.0

チップ出荷価格はスギ・ヒノキは11月の小さなマイナスが12,1月には横ばいに、マツ類は小さなマイナス基調で推移、広葉樹は横ばいで推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキの生産は製紙用使用減、燃料用は当月工場点検のため減、ボード用安定。マツ出材少なく横ばい、広葉樹入荷と出材が同じで横ばい。出荷は当月は減少。出荷は11月に一部の発電所休転のため減少、特に広葉樹不足のため生産調整、チップ製品の在庫はない。
- ・素材在庫減により生産減少。出荷は各製紙会社の受け入れ順調。広葉樹チップの在庫はない。
- ・針葉樹は強い抑制基調薄れ緩やかな増産傾向。出荷は針葉樹は緩やかな増、広葉樹は入荷多く出荷増、燃料チップは木くず入荷多く出荷抑制中、入荷制限実施中。針葉樹は出荷増に伴い在庫減、広葉樹は在庫なし、燃料チップ在庫大幅増。
- ・生産、出荷は11月休転のため減少、但し、輸入チップ値上がりのため国内チップやや増加。在庫は前月同。
- ・1月は正月休みが多いので生産出荷が減少する、降雪期で作業能率が下がると思う。
- ・先月と変わらず。

(木材チップ価格) ・工場生産針葉樹チップは一部製紙会社で当月より値下げ。売値変わらず、仕入値変わらず。

- ・広葉樹チップは先月と変わらず。
- ・前月と同じ。
- ・先月と変わらず。
- ・景気回復、円安にもかかわらずチップ販売価格は据え置き。